

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------|----|-----------------|
| ○事業所名 | 個別療育センター 結いの虹 長居教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年1月27日 | | ～ 2026年2月6日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 16 | (回答者数) 16 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026/2/7 | | ～ 2026年2月14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年2月14日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 生活空間が、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていること。 | TEACCHプログラムの理論をベースに、一人ひとりにあった構造化をこころがけて、実施しています。 | 画一的な構造化ではなく、さらに理解を進めていくために、理論の勉強会や、ケーススタディを行っています。 |
| 2 | こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を行っていること。 | JASPER、ABA、PECS、インリアルアプローチなど、エビデンスのある介入アプローチを通じて、専門性のある支援を行っています。 | 左記介入アプローチの勉強会を行い、実践にも活かしながら職員の支援の質の向上につなげています。 |
| 3 | 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていること。 | 定期的な保護者相談会や突発的な相談に対し、時間を設けて支援しています。 | 保護者相談会の件数を増やしていくために、そのノウハウを共有して、職員の傾聴スキルをブラッシュアップしていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。 | 個別療育の特性上、地域で他の子どもと活動する機会を作り出すことが困難。 | 小集団セッションができる体制づくりをして、個別療育でも可能な別の園の子どもとの交流ができるようにしていく。 |
| 2 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | ◇父母の会の活動の支援や、保護者の交流イベント等は、職員数の配置や実施できる日時が限られてしまい、機会を均等に提供できていない。 ◇きょうだい同士の交流も、親の希望や職員のスキルにより機会を均等に提供できていない。 | 定期的に左記の支援を行なえるような体制づくりをします。 |
| 3 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | ◇個別療育の特性上、全児童に対して行うことが困難。 ◇職員間で行っているが、それを周知できていない。 | ◇定期的に左記の活動を行なえるような体制づくりをします。 ◇掲示やSNSを通じて、これらの活動を周知できるようにしていきます。 |